

開催日：6月1～3日 開催場所：富士スピードウェイ 格式：国内
 主催：富士スピードウェイ株式会社 [団体登録No.公認13003]、FISCO-C [クラブ登録No.公認13008]

フォト/友田宏之、吉見幸夫 レポート/はた☆なおゆき

気力&体力を使い果たして Y's distraction GTNET GT-Rが24時間を制す!



富士スピードウェイの1周が4.563km、759周で約3,463kmも走行した計算となる。24時間の耐久レースがいかに過酷だったかを物語るマシンの雄姿。

ピレリスーパー耐久シリーズ第3戦は、「富士SUPER TEC 24時間レース」として6月1～3日に開催された。国内での24時間レースは10年ぶり、富士スピードウェイでは実に50年ぶり。レース展開以上に驚きだったのが、コースサイドのいたるところにテントが張られ、昼夜を問わず多くの観客が思い思いに楽しんでいただきた。天候に恵まれたことも観客の盛り上がりには拍車をかけていた。

ポールポジションは、ENDLESS GT-Rを駆るYUKE TANIGUCHI / 山内英輝 / 銘苅翼 / 峰尾恭輔 / 砂子塾長 / 山田真之亮組が獲得。決勝もスタートを担当した山内選手のリードから始まり、ENDLESS GT-Rはレースの折り返しを過ぎてなお、トップを邁進していた。しかし、明け方になって20時間めまでに2回義務づけられた、8分間のメンテナンスタイムを行った直後、左フロントから白煙が上がり…。修復に30分近くを要し、ENDLESS GT-Rは優勝戦線から脱落してしまう。



富士スピードウェイから富士山もお目見えするなど、50年ぶりの富士24時間は天候に恵まれた開催となった。

その後は、リム・ケオンウィー / マックス・ホファー / マーチー・リー / メルビン・モー組のPhoenix racing Asia R8、そして浜野彰彦 /

星野一樹 / 藤波清斗 / 安田裕信 / スン・ジェン組のY's distraction GTNET GT-Rによるシーソーゲームが続いたものの、残り5時間を切ったところで決着が。軍配はY's distraction GTNET GT-Rに上がり、759周 / 3463kmも



ST-Xクラス / 1. 浜野彰彦 / 星野一樹 / 藤波清斗 / 安田裕信 / スン・ジェン組のY's distract on GTNET GT-Rが1位。2. 2位はPhoenix racing Asia R8。3. J-Fly Racing R8が3位。



4.ST-TCRクラス1位はm-1 CARFACTORY RS3 LMS。5.ST-1クラスはD'station Porsche cupが1位。6.ST-2クラス1位は新菱オート☆DIXCEL エボX。7.ST-TCRクラスのModulo CIVIC TCRが2位。8.ST-2クラス2位のDXLアラゴスタNOPRO アクセラSKY-D。9.ST-3クラスのDENSO Le Beausset RC350が2位。10.ST-4クラス2位の林テレンブSHADE RACING 86。11.ST-5クラスのDXL フコースNOPRO デミオ SKY-Dが2位。12.ST-3クラス1位は埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マークX。13.ST-4クラスはSunoasis 田中建築86が1位。14.ST-5クラス1位は村上モータースMAZDA ロードスター。15.ST-ZクラスはDIAMANGO Caymanが1位。16.ST-TCRクラス3位のBRP★Audi Mie RS3 LMS。17.ST-2クラスのGLocal☆新菱オートDXL エボXが3位。18.ST-3クラス3位のmuta Racing AD VICS IS350 TWS。19.ST-4クラスのTS CONCEPT 小倉クラッチ86が3位。20.ST-5クラス3位のJS RACING Moty's制動屋FIT。

の走破に成功。これは1967年に行われた最初の「富士24時間」より約240km長い。ただし、途中2回の赤旗中断があったことから、今後の開催でさらに記録が伸びることとなるだろう。

総合優勝を飾った星野選手から衝撃の発言も。「ずっとクラッチのトラブルを抱えていて、最初の頃から、いつか止まるだろうと思いがら、それを最後まで保たせながら走りきれたことが、本当に信じられなくて」と！ 実は辛勝だったことが明らかになった。

50台が挑んで、リタイヤはわずか5台と少なかった一方でトラブルは相次ぎ、それまで連勝を飾っていたチームにも容赦なく襲いかかった。スタートからわずか30分でST-X車両に追突され、フロント右ドアの交換を余儀なくさ

れたのが、ST-2クラスのDAMD MOTUL ED WRX STIを駆る、大澤学/後藤比東至/井口卓人/石坂瑞基組。ST-TCRクラスのModulo CIVIC TCRを駆る、植松忠雄/中野信治/大津弘樹/小林崇志/石川京侍組もハブボルトの損傷からホイールが脱落、大きな遅れをとることに。さらにST-4クラスのTOM'S SPIRIT 86を駆る、松井孝允/坪井翔/中山雄一/蒲生尚弥組は明け方にデフトラブルを抱え、2年越しの連勝記録を7で止めていた。

悲願のクラス初優勝を達成したのが3チーム。ライバルの多くが満身創痍状態の中、ST-TCRクラスでノーミス・ノートラブルだった、m-1 CARFACTORY RS3 LMSを駆る、塚田利郎/蘇武喜和/清龍雄二/松本和之/山路幸宏/渡辺忠司組。ST-3クラスでは、序盤に築き上げた貯金を最後まで守り抜いて埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マークXを駆る、服部尚貴/脇阪薫一/平沼貴之/菅波冬悟/番場琢組が、ST-4クラスで王座に就いた2015年以来的の勝利に。そして強豪の脱落に助けられた一方で、強気のレース展開が実を結んだのが、ST-4クラスのSunoasis 田中建築86を駆る、たしろじゅん/大井貴之/三笠雄一/伊藤毅/田中雅之組だった。



観戦も24時間耐久!? キャンプ&レース観戦ができ、テントを持ち帰れるキャンプ&レジャーパッケージが好評だった。

今季初優勝はST-2クラスの新菱オート☆DIXCEL エボXを駆る、富樹朋広/菊地靖/大橋正澄/成澤正人/藤井芳樹/古山節夫組と、ST-5クラスの村上モータースMAZDA ロードスターを駆る、村上博幸/雨宮恵司/吉田綜一郎/脇谷猛/中根邦憲/杉野治彦組で、それぞれ不連続きの開幕2戦の雪辱を果たすことに。また、孤軍奮闘のST-1クラスでD'station Porsche cupを駆る、星野辰也/織戸学/富田竜一郎/リ・ジョンウ/浜健二/小林賢二組、ST-ZクラスでDIAMANGO Caymanを駆った、石原将光/細川慎弥/池田大祐/坂本裕也/余郷敏組も、しっかり完走を果たした。



ブレーキローターが熱で赤く光って見えるのは夜のレースならではの。